

2025年12月

CHILDREN'S VOICES

アイキャン会報「こどものこえ」VOL.82

2025年5月～2025年10月の活動報告



写真：路上の子どもたちが「権利」について学び、自らの可能性について考える路上教育。路上生活の経験をもつ若者たちが、「諦めなければ君も人生を変えられる」と希望を届けています。

今さらだけど…アイキャンってどういう組織？

前号では、アイキャンが大切にしていることや、向き合う課題と取り組みについて特集しました。今回は、その活動にどのような組織体制で取り組んでいるか、ご紹介します。

フィリピン事務所

フィリピン事務所のスタッフは3名ですが、現地在住の理事1名と大学生のインターン2名（2025年11月現在）がその運営を補助しています。「子どもの家」や「カリエ」（いずれもP3参照）とも連携し、地域巡回（路上の子どもの見回り）や路上教育のサポートもしています。また、関係機関とのネットワーク作りや、日本からのスタディツアー受け入れの準備、訪問先との調整なども担っています。



フィリピン事務所には、20年以上勤務するスタッフや、家族と離れて単身赴任しているスタッフもいます。皆アイキャンへの想いは強く「私たちはファミリー」といつも言っています。互いを信頼し、尊重し合う関係です。（ジョアン）



日本側のスタッフと毎週オンライン会議を行っています。



路上の子どもと話すスタッフ（写真右）。看護師資格もあります。



路上の子どもの問題に関する関係者会議（P4参照）の運営をカリエが担当しています。



カリエによる路上の子どもとの活動も適宜サポートしています。（写真中央がアイキャン職員）

日本事務局



ボランティアに訪れた学生にアイキャンについて説明（名古屋）



本のある居場所（池田）



技能実習生の学校訪問（池田）



若者の居場所（美濃加茂）



若者議会（美濃加茂）

日本には、名古屋本部に加え岐阜県に2つの拠点があります。

【名古屋本部】

日本とフィリピンの事業を統括しています。また、学校等での講演やボランティアさんとの街頭募金も実施しています。

【岐阜出張所（池田町）】

社会の現状や環境、貧困、平和に関する絵本を集めた「居場所」を作り、身近な課題からできることを行動に移す起点になることを目指しています。また地域の団体や企業と連携し、技能実習生への日本語教育や生活支援等も行っています。

【岐阜出張所（美濃加茂市）】

外国籍住民の割合が1割を超える美濃加茂市で、主に①多言語相談窓口の運営と福祉・学校との連携、②若者の居場所づくり、③学習・キャリア支援、④地域とつながる交流の場づくり、⑤外国人コミュニティの担い手育成と地域参画の促進、に取り組んでいます。



名古屋本部はシェアオフィスであることに加え、日々ボランティアさんが事務作業のお手伝いに来てくださるのでぎやかです。総務や会計等様々な業務に追われる中、皆さんとお会いすることでパワーをもらっています。（長谷川）

アイキャンに欠かせないパートナー

アイキャンには、フィリピンでの活動を直接担う大切なパートナーがいます。路上の子どもたちや路上生活の経験をもつ子どもたちと日々向き合い、彼らの「生きる力」「未来を切り拓く力」を育んでいます。

児童養護施設「子どもの家」

「子どもの家」は、かつて路上で厳しい生活を送ってきた子どもたちが安心して過ごし、勉強したり遊んだり、子どもらしく生活できる場です。現在は13~18歳の子どもたちが暮らし、常駐の寮父母や社会福祉士が子どもたちを見守っています。過去のトラウマや将来への不安にも寄り添うとともに、家事や金銭管理の訓練を通して自立に向けた力も育んでいます。子どもたちは次第に本来の笑顔を取り戻し、夢や目標に向かって歩み始めています。「子どもの家」は、子どもたちが未来へ羽ばたくための出発点となっています。



現地では「子どもの家」のことを養護施設とは呼びません。子どもたちにとっての「家」であり、スタッフや一緒に暮らす子どもたちは「家族」だからです。私たちは「お母さん」、年上の子どもは「お兄さん」と呼ばれています。（マリテス）



庭で遊ぶ子どもたち。敷地内には菜園もあり、食育につなげています。



スタッフの周りには子どもたちが勉強を教えてほしいと集まってきます。



スタディツアーや日本人参加者と交流。子どもたちが楽しみにしている時間です。

協同組合カリエ



路上の子どもの「居場所」でもある路上教育



新しいメンバーにも知識と技術を共有

協同組合カリエは、かつて路上生活をしていた若者たちで構成される組織です。現在の主な活動は以下の3つです。

①生計向上活動

パンや菓子（シフォンケーキ、バナナチップスなど）の製造・販売を通じて、路上での仕事に頼らない収入源を生み出しています。

②路上教育活動

路上で暮らす子どもたちに学びの機会をつくる活動です。基本的な読み書きだけでなく「子どもの権利」についても伝え、子どもたちに路上生活以外の選択肢を提示しています。活動の担い手の育成にも力を注ぎ、研修を受けた次世代メンバーが活躍し始めています。

③アドボカシー活動

路上の子どもや若者の声を自治体や政府機関に届け、課題の解決に向けてともに考え、具体的な取り組みを促しています。



カリエ設立当初から活動しています。僕が続けられるのは、収入を得られるからだけではありません。様々な困難に直面しても、ともに考え、支え合う仲間がいるからです。日本の皆さんとの応援も大きな力になっており、僕たちにとってかけがえのない「パートナー」だと感じています。（ジョネル）

子どもの「声」から始まる協働チームづくり

マニラ首都圏では、路上で暮らす子どもたちに必要な支援が十分に届いておらず、貧困下で生まれた子どもたちが路上で生活し、そこから抜け出しが困難な状況が続いている。その要因の一つとして、**路上の子どもの「声」を関係機関や地域住民に届ける機会がない**ことが挙げられます。

アイキャンは「路上教育」を通じて、子どもたちが自分の状況に気づき、それを「子どもの権利」の視点から捉え直す機会をつくってきました。そして、「**当たり前**」だと思っていた日常が「改善できる課題」だと理解した路上の子どもたちが、自身の経験や将来の夢を語る力を育んできました。

その子どもたちとともに、路上の子どもの問題に関わる組織や行政機関、村役員や警察官等との「**関係者会議**」を定期的に開催しています。目的是、路上の子どもたちの「声」を直接届けることと、路上の子どもの課題に社会全体で取り組むための「協働チーム」をつくることです。前号でお伝えした3回目の会議を含め、全5回を予定しており、今期は2回行いました。

一人でも多くの「声」を届けられるよう、会議では毎回、**子どもたちが路上での経験を全員の前で語る時間**を大切にしています。10月の会議では二名が登壇し、うち一名は、過去に行政職員に保護され、施設に連れて行かれたことについて話しました。そこでは年上の少年や施設職員によるいじめや虐待が日常的にあり、不衛生で健康に悪い食事を与えられるなど、悪夢のような生活だったそうです。参加者からは「行政が子どもを保護すれば解決すると思っていたが、そうではないと知り驚いた」などの言葉がありました。

これまでの3回の会議を通して、子どもたちと大人たちの関係性に変化が出てきました。会議で顔を合わせるまでは、路上の子どもを取り締まる大人と、その大人たちを「敵」と感じている子どもたちという関係でしたが、今では問題解決に向けてともに議論を重ねるパートナーへと変わりつつあります。**子どもたちの率直な「声」が大人たちの意識を変え、課題を解決したいという共通の想いをもてるようになった**からだといえます。今後も、子どもの権利を守る立場にある地域の人たちと路上の子どもたちが信頼関係を築き上げ、共通の目標を持って課題に取り組む「協働チーム」となるよう、残り2回の会議を開催していく予定です。



「関係者会議」での約束がカタチに

10月の「関係者会議」では、路上の子どもたちの状況を改善するために、参加者が自分たちの地域で具体的に取り組むべき事柄について議論する時間がありました。教育について話し合った地域では、子どもたちが安心して学べる環境を整えるため、公民館を借りて「路上教育」を行えるようにすることが約束されました。さらに必要な文具や印刷費についても、村から補助を受けられることになりました。

会議から3週間後、早速公民館での「路上教育」が実現しました。これまで外で行っていましたが、この日は天候に左右されることもなく、周囲の騒音も聞こえない室内での活動で、より落ち着いた空間となりました。会議での約束がすぐに実現したこと、今後の継続的な活動へのよいスタートを切ることができました。

※本事業は、公益財団法人風に立つライオン基金の助成により実施しています。

誰かの「想い」が、皆の「行動」につながる場

日々の暮らしの中で、「もっとこうだったらいいいのに」という想いを抱く人は少なくありません。しかし、その想いを言葉にできず胸の内にしまってしまうことや、行動に移したくても「まず何から?」「一人では不安」と動けないこともあります。そんなとき、想いを言葉にできる機会があったり、一緒に考えてくれる仲間とつながったりすることで、「やってみよう」と思えるようになると私たちは考えています。

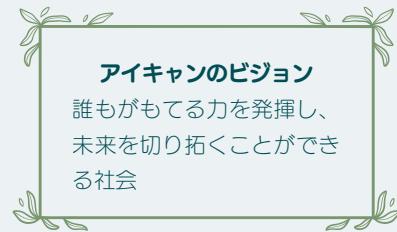
アイキャンは、一人ひとりがもつ力や経験をもとに、仲間とつながり、支え合いながら行動を起こすことを大切にしています。岐阜県美濃加茂市では、2023年に活動を始めて以来、地域で暮らす様々な背景を持つ人々の想いを聴いてきました。

そして2024年12月、同市で「みのこもんづ」という活動を始めました。これは、地域の人々の対話の場を設け、発表者の想いに共感した人たちがその実現に向けて「自分の得意なこと」や「人とのつながり」を共有し、ともに動く取り組みです。

今年7月の「みのこもんづ」では、学校に通わないという選択をし、写真に楽しみを見つけた息子を持つ母親が、自身の体験を語りました。その「**当事者の生の声**」に心を動かされた参加者たちは、写真展とトークショーの企画を立ち上げました。

写真展は6日間開催され、トークショーには、同様の経験を持つ保護者や支援者、教育関係者等22名が参加しました。参加者からは「何気ない言葉が当事者を傷つけることもあると気づいた」といった感想がありました。登壇した母親は「息子が見ている世界を多くの人が受け止めてくれ、私自身も救われた気持ちになりました。今後は、同じような経験をしている保護者や子どもの力になりたいです」と語りました。

このように「みのこもんづ」の活動を通して、**地域の人々がつながり、誰もが参加できる“コモンズ”（皆で共有する場）**が広がっています。7月に発表した母親は、その経験をきっかけに市域を越えたネットワークに参加し、当事者の声を社会に届ける活動の担い手になりました。こうした一歩が、各地域の理解や支援のあり方を変え、「誰もが声を上げて関わることができる社会づくり」へつながりつつあります。



アイキャンのビジョン

誰もがもてる力を発揮し、未来を切り拓くことができ
る社会



*コモンズとは、地域や社会の人々が共同で利用し、共同で守っていく共有資源のことです。土地、水、森林などの自然資源だけでなく、公共のスペースや知識、コミュニティのつながりなども含まれます。

※本事業は、赤い羽根福祉基金の助成により実施しています。

ホームページをリニューアルしました！

10月30日、アイキャンのホームページをリニューアルしました。IT技術者のボランティアである吉山晃さんに作成いただき、スマートフォンからも閲覧しやすい構成になっています。ぜひ一度ご覧ください！

～吉山さんからのコメント～

旧友でもあるスタッフの声に応え、2022年からアイキャンのウェブ管理に携わってきました。今回のリニューアルでは、スマートフォン対応を意識した新デザインを導入し、技術者としての経験を存分に活かすことができました。本業では第一線を退いた今、自分のスキルが再び誰かの役に立つ喜びを感じています。「できることを持ち寄る」—アイキャンの理念にある通り、皆さんもご自身の「できること」を活かしてみませんか？



ホームページは
こちら↑
*URLは以前
と同じです



スタディツアー

“知る”から“動く”へー私が踏み出した一歩

橋本明育さん

私は、クラスメイトがアイキャンのツアービークを涙ながらに語る姿に強く心を動かされました。フィリピンの現実を自分の目で確かめたい、16歳の今だからこそ、現地の同年代の子どもたちと交流して分かり合えることがあるはずと感じ、反対する両親を時間をかけて説得し、自費で参加しました。ツアーでは多くを学び、日本に生まれたことへの感謝とともに、厳しい現実にも直面しました。

帰国後は、語学力を高め、世界の貧困や環境問題を学び発信する決意を固めました。英会話教室に通うとともに、ツアーについてまとめた動画とレポートを高校の公式インスタグラムで発信し、校内にも掲示しています。さらに母校の中学校にも直談判し、レポートを掲示してもらいました。その結果多くの反響があり、スタディツアーに参加したいという仲間が増えました。これからも、路上で暮らす子どもたちの笑顔のために行動を続けたいと思います。



子どもたちとの交流



橋本さん作成のレポート

春のスタディツアー、参加者大募集！

—「社会」と「私」と「未来」を変える5日間—

アイキャンのスタディツアーは、活動地の人びとや子どもたちとの交流が満載です！

経験豊富なスタッフが同行しますので、海外が初めての方も、お一人でのご参加も大丈夫。

寒い日本を抜け出して常夏のフィリピンに、ぜひ一緒に行きませんか？

日程 プランA：2026年2月18日(水)～2月22日(日)

プランB：2026年3月18日(水)～3月22日(日)



詳細は[こちら](#)↑

どんなことでもお気軽に
お問い合わせください！
✉ info@ican.or.jp
(担当：吉田)



世界一長いクリスマス

フィリピンの行事の中で、最もフィリピン人に愛されているのがクリスマスです。クリスマスの準備は9月から始まり、1月初旬まで飾り付けがされていることから「世界で最もクリスマスが長い国」とも言われています。アジアの国では珍しく人口の約9割がキリスト教徒（うち8割がカトリック）であるフィリピンでは、宗教的な意味合いが強く、多くの人が12月16日から9日間毎日教会で行われるミサに通い、キリストの生誕を祝います。

そんなクリスマスシーズンも、路上の子どもたちにとっては普段と変わらない日々です。イルミネーションが輝き、プレゼントやパーティーの準備に勤しむ人々を横目に、今日も路上で働いています。いつもよりお金を落してくれる人が増える分、いつも以上に格差を目の当たりにするクリスマス。そんな日々に、社会に、路上の子どもたちは何を思うでしょう。



孤独なクリスマスにしないために。—子どもたちに温かい居場所を—

2025年11月20日から2026年1月29日まで、クラウドファンディングを実施します。

孤独感を一層強めるクリスマスに、路上の子どもたちの学びと居場所を守りたいです。

同封のチラシまたは右記二次元コードよりWEBページをご覧の上、ぜひご協力ください。



◆ 「変化」は成長への扉

クリス君（仮名／「子どもの家」・14歳）



僕は路上で暮らしていた頃学校に通っておらず、読み書きができませんでした。「子どもの家」で暮らし始めて入学し、1年生のクラスに入ると、年齢も体も大きいために心無い言葉を言われることもありました。でも、いつも僕を励ましてくれる「子どもの家」の皆のおかげで「頑張って勉強しよう」と前向きになれました。そして2年生のときに飛び級テストに合格して7年生に進級し、今は8年生になりました*。暮らす場所が変わったこと、入学、進級—その一つひとつの“変化”は、僕にとって学びと成長のチャンスでした。今路上にいる子どもたちには「どんな変化も、成長するためのチャンスになる」と伝えたいです。

*合格すれば学年を飛び越えて進級できるテスト。7年生は日本の中学1年生、8年生は日本の中学2年生にあたる。

◆ 路上教育で広がった僕の世界

ジェイマート君（マニラ・20歳）

僕は、幼い頃からアイキャンの活動に参加してきました。昨年カリエから、路上教育の担い手になるための研修があると聞き、参加を決めました。新しいことを学べるし、自信がつくと思ったからです。僕の住んでいる地域から参加を申し出たのは僕だけだったので、**地域を代表して活動を広める役割を担いたい**と思いました。そして研修を終え、子どもたちに教えることができるようになり、周りの仲間が僕を尊敬してくれるようになりました。自信がついたし、活動で他の地域の仲間とも出会って世界が広がりました。父も応援してくれているので、今後も家計を支えながら活動を続けたいです。



◆ ささやかでも自分ができること。

羽田野敦子さん（ボランティア）

私はたまたま目にした「ハガキカウントボランティア募集」のチラシがきっかけで、アイキャンでのボランティアを始めました。最初は「退職してできた時間を使えば」という漠然とした気持ちで参加したのですが、スタッフさんの話を聞いたり、オンラインで「子どもの家」で暮らす子どもたちの様子を見せてもらったりしているうちに、少しづつアイキャンの理念や活動の意義についても意識するようになりました。特別なスキルのない私にできることは限られていますが、**ささやかでも自分ができること**を通じてお役に立てれば、と思いながらボランティアを続けています。

～月々1,000円からできること～
マンスリーパートナーになってください！



詳しくはこちら↑

遺贈寄付に関するご相談
も承っております。まずは
お問い合わせください。
✉ info@ican.or.jp

マンスリーパートナーは、月々1,000円からの一定額のご寄付で、アイキャンの活動・運営を応援していただく制度です。継続的なご寄付は、活動の持続・発展において大きな力となります。ぜひマンスリーパートナーになって、私たちと「ともに」活動してください！



1,000円のご寄付で

例えば、6人の子どもに文房具一式を提供できます。



3,000円のご寄付で

例えば、約60人の子どもに路上教育をする材料費になります。



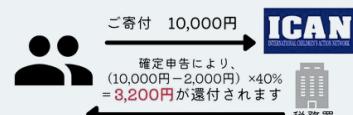
5,000円のご寄付で

例えば、「子どもの家」の子ども1人の約半年分の通学費になります。

税制優遇が受けられます

アイキャンは、名古屋市の認定を受けた「認定NPO法人」です。アイキャン発行の寄付金領収書を用いて確定申告を行うと、税制上の優遇措置（寄付金控除）を受けることができます。

例) 10,000円のご寄付の場合



12月は寄付月間



ブックオフ「キモチと。」 キモチ届けようキャンペーン



年末の大掃除で見つかった、不要な本やDVD等はありませんか？下記キャンペーン期間中にご寄付をお申込みいただくと、1件につき500円がブックオフから上乗せされ、アイキャンへ寄付されます。ぜひお手元の不要品を通して、アイキャンの活動を応援してください！

キャンペーン期間

12月1日（月）～12月31日（水）
お申込み分まで



お申込みサイト



売れるもの一覧

※アイキャンでは、お電話でのお申込みを12月26日（金）まで承っております。
(052-253-7299)

※買取対象のお品物については「売れるもの一覧」をご確認ください。

■条件

- ・1回のお申込につき、お品物10点以上の送付が必要です。
- ・キモチと。プログラムサイト経由のお申込み分が対象となります。

※ブックオフ店舗、宅配買取、回収ボックスのご利用は対象外です。

■注意事項

- ・同一商品にはお値段をお付けできませんので、大量の送付はお控えください。
- ・お申込み後にキャンセルされた場合は、キャンペーン対象外となります。
- ・上乗せされる500円は、お客様のマイページや査定結果メールには表示されません。（査定額とは別に、ブックオフより当団体へ寄付されます）



未投函ハガキ/未使用切手等 回収活動強化期間



年末年始、お手元に余った年賀ハガキ等、未投函のハガキはありませんか？それらをご寄付いただくことで、アイキャンの活動の大きな力になります。ぜひ名古屋事務所（下記）へお送りください！

詳しくはこちら↑

集めているもの

- ◎未投函の官製ハガキ※
- ◎未使用の切手
- ◎テレフォンカード
- ◎商品券
- ◎収入印紙
- ◎外貨（紙幣・コイン）

※書き損じのものや古いものでも、官製ハガキであれば対象となります

集めていないもの

- ×投函済のハガキ
- ×官製ハガキではないハガキ（切手を貼る必要がある絵葉書等）
- ×使用済切手等
- ×残度数が9度以下のテレフォンカード



ハガキ1枚は、例えば、ノート1冊に生まれ変わる程の価値をもっています！



～企業・団体の皆さんへ～

アイキャンでは、国内外の活動を通じてSDGs達成に向けて取り組む中で、様々な企業・団体との連携を進めています。各社の強みや特性を活かした社会貢献の形とともに考えていきますので、ぜひご相談ください。（✉ info@ican.or.jp）



企業・団体との連携についてこちら↑

アイキャンにご協力くださった企業・団体の皆さん



アース製薬

Snowcafe



YADA



※2024年11月～2025年10月のご協力企業様が対象。一部のみ掲載。

認定NPO法人アイキャン (ICAN)

◆名古屋事務局

〒461-0002 愛知県名古屋市東区代官町39-18

日本陶磁器センタービル5F 中部リサイクル運動市民の会内

◆岐阜出張所（池田町）

〒503-2406 岐阜県揖斐郡池田町宮地515-2

◆岐阜出張所（美濃加茂市）

〒505-0041 岐阜県美濃加茂市太田町2542-10 太田パークビル3階

【TEL&FAX】 052-253-7299

（休業日：日・月・祝）

【E-mail】 info@ican.or.jp



ホームページ



Instagram



Facebook